



黄圃の地多竹木有如椽竹工割去其節用代陶瓦我  
 駿州亦竹小石あり古より竹皮以て敷種の巻割米  
 国産せり頃目一工入長九尺横四尺の基上小尺五分の  
 割と以一屋世を作願大屋高堂して三階三階三階  
 取次小庄鋪容の間上段各區畫して三拾間置敷敷  
 百拾畳床の間物戸糊押入関襖障子四百八十本雪隠  
 に至る並毫竹ふらうらう家に住ひ全備せり就中最  
 奇なるは床脇の袋戸丈三分の一七敷枚の関置在る  
 其工緻密なる實に難事筆黄州竹樓の景况茲に現出  
 するかと疑ふ諸君幸ひ高野見有らん事と謹々  
 冀望す  
 明治十年 月日

[竹細工見世物引札] ㊦6-3145-115